

嚥下通信

Vol. 26

テーマ

1人で食べられるための工夫

ついつい介助していませんか？

認知症や脳卒中により、箸が使用できなくなったり普通の食器ではうまく食べられなくなることがあります。食事のお手伝いが必要になる場合が多いですが、食器やスプーン、箸を工夫することで、自分で食べられるようになります。



物品の特徴と使用対象になる方

グリップ
握力が弱くスプーンが持ちにくい

先曲りスプーン
・口元に運びにくい
・口元からそれる

<ワンプレート皿>



・手がうまく使えない
・食材をうまくすくえない

・お皿に手が届かない
・認知機能の低下により集中して食べられない

先割れスプーン
スプーンとフォークの持ち替えが困難

介助箸
・持つ力が弱い
・利き手ではない手で食べている

<自助食器>



自分で食べられるように工夫することは大切です。食器やスプーンには様々な種類があり、その方の状態により対応する物品が変わります。何を使えばよいか迷ったら作業療法士にご相談ください！

下牧・國本

掲示許可シール
貼付スペース